

登録コード	ASP00500						
授業科目	地域環境計画学特論				担当教員	佐々木 邦博	
英文授業名	Advanced Lecture in Regional Environmental Planning				副担当	内川 義行・三木 敦朗・上原 三知	
単位数	2	講義期間	前期(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	1年次生
講義室	農学部16番講義室		授業形態	講義	備考		
<p>(1) 授業の達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信州の自然環境に恵まれた特色を生かし、専門職業人となるための専門的学力とその応用力を修得する。</li> <li>・中山間地及び地方都市には様々な問題が山積している。解決する糸口として、農林業を営む環境、日常生活をおくる環境を対象に、土地利用、生活空間と緑地、農業、林業、景観の面から現状を学ぶとともに、課題を取り上げ、それらを理解し深く考察できるようになることを目的とする。そしてその課題への対処となる計画を検討していく。</li> </ul> <p>(2) 授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本特論は中山間地及び地方都市において、農林業を営む環境、日常生活をおくる環境を対象に、土地利用、生活空間と緑地、農業、林業、景観に関する現状と課題を理解するため、各地の事例をもとにして実態を説明するとともに、課題を深く考察し解決方法を考える能力を養う。</li> </ul> <p>(3) Contents:</p> <p>(4) 授業計画</p> <p>第1回 (6/1): 本特論の目的と概要説明 (担当 佐々木)</p> <p>第2回 (6/1): 居住からみる都市計画の現状と課題 (担当 佐々木)</p> <p>第3回 (6/1): 居住からみる緑地計画の現状と課題 (担当 佐々木)</p> <p>第4回 (6/1): 自然景観の評価と保全及び利用 (担当 佐々木)</p> <p>第5回 (6/1): 重要文化的景観の選定地区の現状と課題 (担当 佐々木)</p> <p>第6回 (6/22): 農村生活環境整備 (担当 内川)</p> <p>第7回 (6/22): 農地生産基盤整備 (担当 内川)</p> <p>第8回 (6/22): 農村整備計画の現状と課題 (担当 内川)</p> <p>第9回 (6/22): 林野利用の諸形態と開発 (担当 三木)</p> <p>第10回 (6/22): 林業の経済史と山村問題 (担当 三木)</p> <p>第11回 (6/29): 森林と環境に関する計画とゾーニング (担当 三木)</p> <p>第12回 (6/29): 地域景観と土地利用 (担当 上原)</p> <p>第13回 (6/29): 景観の地域特性 (担当 上原)</p>					<p>第14回 (6/29): 景観計画手法とその活用例 (担当 上原)</p> <p>第15回 (6/29): まとめ(上原)</p> <p>定期試験 レポートの作成</p> <p>(5) 成績評価の方法</p> <p>特論への参加姿勢とレポートにより総合的に評価する。秀: 90点以上、優: 80~89点、良: 70~79点、可: 60~69点、不可: 59点以下とする。</p> <p>履修上の注意</p> <p>遅刻せず、欠かさず出席すること</p> <p>質問,相談への対応</p> <p>授業後、随時対応する</p> <p>学生へのメッセージ</p> <p>授業内容には難しい点も含まれるが、丁寧に説明する。元気に予習復習をすること。</p> <p>【教科書】 未定</p> <p>【参考書】 未定</p>		

登録コード						
授業科目					担当教員	
英文授業名					副担当	
単位数		講義期間		曜日・時限		対象学生
講義室			授業形態		備考	

登録コード	ASM00500	県内大学履修科目			
授業科目	生産環境システム学特論			担当教員	渡邊 修
英文授業名	Advanced Lecture in Food Production and Environmental System			副担当	萩原 素之・濱野 充
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	水曜・4時限
講義室	農学部11番講義室		授業形態	講義	備考
<p>(1) 授業の達成目標 環境問題やエネルギー問題といった地球規模での課題が増すなか、人間が自然と調和しながら持続可能な社会を構築することが強く求められている。持続的な食料生産を可能とする農業生産システムの構築の上で重要となる生産環境の構成要素と管理について、その重要性和その的確な運用を科学的・論理的に説明でき、システムの評価を科学的に行うことができることを目標とする。</p> <p>(2) 授業の概要 本授業はおもに講義形式で進めるが、能動的学習を推進するため3回のディスカッションを行う。生物的環境の広域観測に関わるセンシング手法とその原理の理解、耕地の化学的環境管理としての有機物投入、耕地の物理的環境管理としての土壌水分・灌漑の管理など、主に生態学に立脚した環境管理、および植物資源・農産物生産における地域環境資源の活用3つについて講述するとともに、ディスカッションによって理解の深化と問題意識・問題解決能力の養成を図る。</p> <p>(3) Contents: Three times of discussion will be allocated to promote active learning during the semester. Themes treated in this lecture will be methodology and principles of sensing technique used for the observation of wide-area biological environment, management of soil water and irrigation as a physiological management of arable lands, environmental management based mainly on ecology, and utilization of local environmental resources in plant- and agro-production. Discussion is intended to help stronger understanding of the themes, and thereby raise students's awareness on the themes and strengthen their problem-solution skill.</p> <p>(4) 授業計画 第1回：ガイダンス(「生産環境システム」とはどのような領域か?) (担当 萩原素之) 第2回：リモートセンシングによる世界の生産環境の観測 (担当 渡邊修) 第3回：リモートセンシングによる日本の生産環境の観測 (担当 渡邊修) 第4回：観測スケールと環境評価(担当 渡邊修) 第5回：生産環境における有害生物の管理(担当 渡邊修) 第6回：ディスカッション：生産環境の観測と評価について(担当 渡邊修) 第7回：持続的作物生産システム(担当 萩原素之) 第8回：生産環境の土壌と化学的環境(担当 萩原素之) 第9回：生産環境における水分制御と作物生産性の評価(担当 萩原素之) 第10回：世界における灌漑と塩害発生メカニズム(担当 萩原素之)</p>				<p>第11回：ディスカッション：耕地土壌の物理的・化学的環境管理(担当 萩原素之) 第12回：地域環境資源の再生と保全(担当 濱野充) 第13回：東南アジアにおける農環境と資源循環の評価(担当 濱野充) 第14回：生産環境における生物間の相互作用1(担当 角田智詞) 第15回：生産環境における生物間の相互作用2(担当 角田智詞) 第16回：定期試験</p> <p>(5) 成績評価の方法 植物資源や農産物の生産の持続性の維持および質の向上に関わるさまざまな環境要因の制御や管理に関する理論と実践に関する理解や問題解決意識の程度をみるため、毎回の小レポート(75点)と定期試験(25点)の合計100点で評価し、90点以上を優、80点以上を良、70点以上を可と評価し、60点未満の場合は単位を与えない。</p> <p>履修上の注意 前期水曜4コマ 地域共生マネージメントプログラムの学生は受講すること。</p> <p>質問、相談への対応 担当教員 萩原素之 (mothagi@shinshu-u.ac.jp) 渡邊修 (wtgabe@shinshu-u.ac.jp) 濱野充 (hamano_m@shinshu-u.ac.jp) 角田智詞 (ttsunoda@shinshu-u.ac.jp)</p> <p>学生へのメッセージ 2回のディスカッションは、受講学生のプレゼンテーションを基に、主として受講学生間で行うことを意図しています。プレゼンテーションの担当者は、そのための充分な準備を行って下さい。また、プレゼンテーションの担当ではない学生も、ディスカッションに積極的に参加できるよう、設定されているテーマについての適切な事前学習を行って下さい。</p> <p>【教科書】 未定 【参考書】 各回の内容に関連するものを各担当教員が適時、受講者に配布またはアナウンスする。</p>	

登録コード					
授業科目				担当教員	
英文授業名				副担当	
単位数		講義期間		曜日・時限	
講義室			授業形態	備考	

登録コード	AS400500					担当教員	林 靖人	
授業科目	地域連携・経営学特論					副担当		
英文授業名	Advanced Regional cooperation and Management 1					副担当		
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	水曜・6時限 水曜・7時限	対象学生	農学専攻(地域共生マネジメントプログラム)他	
講義室	農学部13番講義室			授業形態	講義	備考		
<p>(1) 授業の達成目標 本授業では、近年の地域経営において最も重要な視点ともいえる「地域ブランド」を学習テーマとします。具体的には、全国の地域ブランドづくりの事例研究をおこない、地域のブランドイメージ形成に取り組むための基礎知識、方法論、スキルの習得を目指します。受講者は自らが地域のブランド構築に取り組むための、ブランド構築から評価、マネジメントに関する基礎知識「ナレッジ(知識)」、多様な主体との対話から新たな集合知・イノベーションを引き出す「アビリティ(能力)」課題の現状、原因、解決策を体系的に構造化する「スキル(技術)」を獲得します。</p> <p>(注)本授業は「地域連携・経営学特論」と併せて受講することを強く推奨します。それにより上記能力の獲得が促進されることとなります。</p> <p>(2) 授業の概要 本授業では、全国の地域ブランドづくりの事例(ケース)を用いて学習をおこないます。授業の形態はMBA等で用いられる「ケース・メソッド」と呼ばれる学習手法に「対話型課題解決ワークショップ」を組み合わせる方式で実施します。具体的には、講師から設定されたケースについて当該事例およびその業界、関連分野について事前学習を行います。授業においては、事前学習で作成したリサーチ・ノートを基に自らの分析視点を教員や受講生と共有し、議論をします。また、ケース・メソッドの議論は一般的に口述で展開されますが、本授業では課題解決型ワークショップと運動させることで、議論の内容を可視化し、受講者の理解やひらめきを促進します。また、課題の現状、原因、解決を構造化しながら、創造的な対話を行うことで、イノベティブなアイデアを創出するプロセスを実践します。これを繰り返すことにより、到達目標の能力を身につけます。</p> <p>なお、授業は全16回で構成されますが、毎回2回ずつ実施します。また授業の実施方法については、「地域連携・経営学特論」と同様の手法を採用します。</p> <p>(3) Contents: In this class, we learn about regional cooperation and management with using case of place branding. For the management of class, we take Case-Method used in MBA and Workshop-Method for visualization of discussion. To gain the ability of cooperation and management, 1) The student in this class, make research notebook about the theme case by prior learning. 2) During the class, we share and discuss own analysis viewpoint with a teacher and other students. 3) To accelerate thinking, we visualize the dialogue with "Post-it". Through these technique, we derive "Structure of the problem" "Structure of Cooperation" and "Innovative Idea".</p> <p>(4) 授業計画 第01-02回:【座学】ガイダンス・地域ブランド概論 前半:協働マネジメントの疑似課題演習と対話型課題解決WS演習 後半:地域ブランド概論 第03-04回:【双方向】ケース1「上野町」 前半:ケース分析(グループ/全体討議) 後半:課題解決ワークショップ 第05-06回:【双方向】ケース2「小布施町」 前半:ケース分析(グループ/全体討議) 後半:課題解決ワークショップ 第07-08回:【双方向】ケース3「富士宮市」 前半:ケース分析(グループ/全体討議) 後半:課題解決ワークショップ 第09-10回:【双方向及実地】ケース4「駒ヶ根市」 前半:ケース分析(グループ/全体討議) 後半:課題解決ワークショップ 第11-12回:【双方向】ケース5「受講生設定ケース1」 前半:ケース分析(グループ/全体討議) 後半:課題解決ワークショップ 第13-14回:【双方向】ケース6「受講生設定ケース2」 前半:ケース分析(グループ/全体討議) 後半:課題解決ワークショップ 第15回:【座学】総括 第16回:口述試験(授業を通じて本授業の到達目標をどのように理解したか)</p> <p>ケースは講師事情等により一部変更あるいは順序等が変更になることがあります。より詳細な内容、不明な点について知りたい場合は事前に相談を受け付けます。受講人数により、授業の実施方法等の一部変更することがあります</p>					<p>(5) 成績評価の方法 基本点と追加点の合計点で成績評価を行います。100点を越える分は切り捨てとします。 基本点:100点 各回の討議やワークショップでの発言に対するピアレビュー(10点×6回ケース) リサーチ・ノートの評価(5点×6ケース) 口述試験(10点) 追加点:20点 授業内で案内するイベント等への参加とレポート(5点×2件まで) 授業内で依頼する調査や実験等への協力(5点×2件まで) 秀:90-100点,優:80-89点,良:70-79点,可:60-69点,不可:59点以下</p> <p>履修上の注意 授業を受講するにあたって必要な基礎知識を事前に学習することを前提とします。また、各回の授業終了後に、次回授業で扱うテーマを案内しますので、受講者は新聞・書籍・論文・インターネットなど各種メディアを使って関連する知識を収集し、整理をすることを求めます。 なお、情報の利用にあたっては出典等を確認し、妥当なものを用いることに注意してください。</p> <p>質問 相談への対応 ○質問や相談は授業中、終了後に受け付けます。 ○授業時間外での相談等について ・メールの場合:yhayashi@shinshu-u.ac.jpへ連絡をお願いします。 ・対面の場合:普段は松本キャンパス勤務ですが、授業日以外で直接対応を希望される場合は、下記でも受け付けますが、事前にご連絡をお願いします ・産学官連携推進本部(0263-37-2075) 場所:信州地域技術メディアリサーチセンター ・研究室(0263-37-2967) 場所:全学教育機構南棟4F ○欠席等をする場合は、事前にご連絡をお願いします</p> <p>学生へのメッセージ 本授業では、3つの"しこう"を形成を目指します 「主体となって、地域・社会を創造する"志向"」 「課題解決のための戦略的な"思考"」 「机上論とせず小さなことから"試行"」 人口ボーナス社会からオーナス社会への変化は、大きな社会変化をもたらします。今までできていたことができなくなる可能性もあります。その一方でピンチはチャンスとしてイノベーションを起こし、今までもり先に進んだり社会を創ることも不可能ではありません。社会を新たに創生する当事者となる方にお越しいただき、一緒に考えたいと思います。</p> <p>【教科書】 教科書は指定しない。自らがリサーチ・ノートを作成し、それを用いる 一部資料は各授業回の前に教員側で配布する 授業で扱うケースは参考書内に示されているため、事前に入手・貸借等により読むことを推奨</p> <p>【参考書】 開滿博・足利亮太郎 2007 「村」が地域ブランドになる時代 新評論・ 開滿博・遠山浩 2007 「食」の地域ブランド戦略 新評論・ 開滿博・及川孝信 2006 地域ブランドと産業振興 新評論・ 渡辺英彦 2007 ヤ・キ・ソ・バ・ブ・ル 面白くて役に立つまちづくりの聖書 静新新書・</p>			

登録コード						担当教員		
授業科目						副担当		
英文授業名						副担当		
単位数		講義期間		曜日・時限		対象学生		
講義室				授業形態		備考		

登録コード	AS401500					担当教員	林 靖人	
授業科目	地域連携・経営学特論					副担当		
英文授業名	Advanced Regional cooperation and Management 2					副担当		
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・6時限	水曜・7時限	対象学生	農学専攻(地域共生マネジメントプログラム)他
講義室	農学部13番講義室		授業形態	講義	備考			
<p>(1) 授業の達成目標 本授業では、我が国・長野県が抱える社会・地域課題を学習テーマとし、その課題解決に必要な基礎知識、プロセスやスキルの習得を目指す。具体的には、中山間地域の存続、エネルギーの地産地消、環境共生、防災減災、多文化共生、定住促進、などのケース(事例)を通じて、受講者が自ら取り組む課題に対応するための、社会・地域課題解決に対する熟意と冷静で客観的な分析を行う「マインド(志向)」 多様な主体との対話から新たな集合知・イノベーションを引き出す「アビリティ(能力)」 課題の現状、原因、解決策を体系的に構造化する「スキル(技術)」 を獲得します(本授業の到達目標)。 (注)本授業は「地域連携・経営学特論」に連続して受講することを強く推奨します。それにより上記能力の獲得が促進されることとなります。</p> <p>(2) 授業の概要 本授業では、外部講師等の協力も得ながら、「リアルケース(現実の生きた課題)」を用いて学習します。授業の形態はMBA等で用いられる「ケース・メソッド」と呼ばれる学習手法に「対話型課題解決ワークショップ(WS)」を組み合わせた方式で実施します。具体的には、講師から設定されたケースについて当該事例およびその業界、関連分野について事前学習を行います。授業においては、事前学習で作成したリサーチ・ノートを基に自らの分析視点を教員や受講生と共有し、議論をします。また、ケース・メソッドの議論は一般的に口述で展開されますが、本授業では課題解決型ワークショップと連動させることで、議論の内容を可視化し、受講者の理解をひらめきを促進します。また、課題の現状、原因、解決を構造化しながら、創造的な対話型WSをすることで、イノベティブなアイデアを創出するプロセスを実践します。これを繰り返して行うことで、その能力を身につけます。 (注)授業は全16回で構成されますが、毎回2回ずつ実施します。また授業の実施方法については、「地域連携・経営学特論」と同様の手法を採用します。</p> <p>(3) Contents: In this class, we learn about regional cooperation and management with using case of place branding. For the management of class, we take Case-Method used in MBA and Workshop-Method for visualization of discussion. To gain the ability of cooperation and management, 1) The student in this class, make research notebook about the theme case by prior learning. 2) During the class, we share and discuss our analysis viewpoint with a teacher and other students. 3) To accelerate thinking, we visualize the dialogue with "Post-it". Through these technique, we derive "Structure of the problem" "Structure of Cooperation" and "Innovative Idea".</p> <p>(4) 授業計画 第01-02回:【座学】ガイダンス・地域課題学習へのチェックイン作業 前半:授業概要の説明、地域課題の現状、後半:受講生同士の課題意識共有WS 第03-04回:【双方向】ケース1「地域ブランドの構築・地域イメージの活用」 前半:ケース分析(グループ/全体討議) 後半:課題解決ワークショップ 第05-06回:【双方向】ケース2「エネルギーの地産地消・水エネルギーの活用」 前半:ケース分析(グループ/全体討議) 後半:課題解決ワークショップ 第07-08回:【双方向】ケース3「環境共生型社会の構築・ユネスコ・エコパーク」 前半:ケース分析(グループ/全体討議) 後半:課題解決ワークショップ 第09-10回:【双方向】ケース4「遊休農地農地の活用と新産業創造・ソルガムの導入事例」 前半:ケース分析(グループ/全体討議) 後半:課題解決ワークショップ 第11-12回:【双方向】ケース5「環境と生活文化の保全・棚田農業、文化的景観の保全」 前半:ケース分析(グループ/全体討議) 後半:課題解決ワークショップ 第13-14回:【双方向】ケース6「地域の中小企業と経営革新」 前半:ケース分析(グループ/全体討議) 後半:課題解決ワークショップ 第15回:【座学】総括 第16回:口述試験(授業を通じて本授業の到達目標をどのように理解したか)  ケースは講師事情により一部変更あるいは順序等が変更になることがあります。 より詳細な内容、不明な点について知りたい場合は事前に相談を受け付けます</p>					<p>受講人数により、授業の実施方法を一部変更することがあります</p> <p>(5) 成績評価の方法 基本点と追加点の合計で成績評価を行います。100点を超える分は切り捨てとします。 基本点:100点 各回の討議やワークショップでの発言に対するピアレビュー(10点×6回ケース) リサーチ・ノートの評価(5点×6ケース) 口述試験(10点) 追加点:20点 授業内で案内するイベント等への参加とレポート(5点×2件まで) 授業内で依頼する調査や実験等への協力(5点×2件まで) 秀:90-100点、優:80-89点、良:70-79点、可:60-69点、不可:59点以下</p> <p>履修上の注意 本授業では、3つの「しこう」をモットーとします。「主体となって、地域・社会を創造する」志向を醸成する「課題解決のための戦略的な思考」を獲得する。「机上論とせず小さなことから「試行」する」 そのため、授業を受講するにあたって必要な基礎知識を事前に学習することを前提とします。また、各回の授業終了後に、次回授業で扱うテーマを案内しますので、受講者は新聞・書籍・論文・インターネットなど各種メディアを使って関連する知識を収集し、整理することを求めます。 なお、情報の利用にあたっては出典等を確認し、妥当なものを用いることに注意してください。</p> <p>質問、相談への対応 ○質問や相談は授業中、終了後に受け付けます。 ○授業時間外での相談等については ・メールの場合:yhayashi@shinshu-u.ac.jpへ連絡をお願いします。 ・対面の場合:普段は松本キャンパス勤務です。授業日以外で直接対応を希望される場合は、下記でも受け付けますが、事前にご連絡をお願いします ・産学官連携推進本部(0263-37-2075) 場所:信州地域技術メディカル展開センター ・研究室(0263-37-2967) 場所:全学教育機構南棟4F ○欠席等をする場合は、事前にご連絡をお願いします</p> <p>学生へのメッセージ 本授業では、3つの「しこう」を形成を目指します 「主体となって、地域・社会を創造する」志向」 「課題解決のための戦略的な思考」 「机上論とせず小さなことから「試行」 人口ボーナス社会からオーナス社会への変化は、大きな社会変化をもたらします。今までできていたことができなくなる可能性もあります。その一方でピンチはチャンスとしてイノベーションを起こし、今までよりも先に進んだより社会を創ることも不可能ではありません。社会を新たに創生する当事者となる方にお越しいただき、一緒に考えたいと思います。</p> <p>【教科書】 ケース・ブック(ケース学習の教材)は、教員が独自に作成する資料を用いる 【参考書】 ウィリアム・エレット(著)、斎藤聖美(訳) 2010 「入門 ケース・メソッド学習法」ダイヤモンド社。 ...(ケース学習者向け) 堀 公俊 2008 「ワークショップ入門」 日本経済新聞社出版社。</p>			

登録コード						担当教員		
授業科目						副担当		
英文授業名						副担当		
単位数		講義期間		曜日・時限		対象学生		
講義室			授業形態		備考			

登録コード	AS402500				担当教員	平松 浩二	
授業科目	動植物環境共生学特論				副担当		
英文授業名					副担当		
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	水曜・1時限	対象学生	地域共生マネージメントプログラム受講生
講義室	農学部16番講義室		授業形態	講義	備考		
<p>(1) 授業の達成目標 生物資源科学分野では、単に農業生産物を作り出すだけではなく、動植物をベースとした生物資源を高度に利用しながら、人・動植物・環境との共生を理解し、持続的に利用する取り組みが必要である。生物資源利用に関わる社会にニーズは多岐にわたることから、ここでは我々の食生活あるいは環境要因として深く生活に関わっている家畜・家禽や果樹・野菜・作物などの動・植物を通じて生物および生物現象について、多角的な視点で概説する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動植物体およびこれらに見られる生物現象について理解し、応用できる。</li> <li>・動植物体と環境との相関について理解し、科学的な自然観を習得する。</li> <li>・動植物の利用に関連して、社会的に生じている問題点を整理し、解決法を相互に議論する。</li> </ul> <p>(2) 授業の概要 生物資源科学分野の所属教員によるリレー形式で行われます。各教員の専門分野から動物生産および食資源生産について概説します。</p> <p>(3) Contents:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Guidance, Comparative animal anatomy --- K. Hiramatsu</li> <li>2. Animals as meat --- K. Hiramatsu</li> <li>3. Nutrition and metabolism in farm animals --- K. Koh</li> <li>4. Animal development and reproduction --- K. Hamano</li> <li>5. Animal behavior and welfare --- K. Takeda</li> <li>6. Microbes that inhabit animal digestive tract --- Y. Ueno</li> <li>7. Plant Biotechnology --- K. Banno</li> <li>8. Plant breeding and biomass utilization --- S. Kasuga</li> <li>9. Observation and conservation of food production field and environment --- O. Watanabe</li> <li>10. Explore and evaluation of plant resources --- K. Matsushima</li> <li>11. Utilization of the gene expression analysis in horticultural plants --- Y. Kitamura</li> <li>12. Crop production and bio-physical cycle in nature --- M. Hagiwara</li> <li>13. Plant Genetic Resources; their utilization and possibility --- K. Nemoto</li> <li>14. Insect pest management and conservational agriculture --- T. Tsunoda</li> <li>15. Agricultural system and bio-resources circulation in South East Asia --- M. Hamano</li> <li>16. Term examination</li> </ol> <p>(4) 授業計画 第1回 4月10日：ガイダンス、比較動物解剖学 (平松浩二) 第2回 4月17日：食肉としての動物 (平松浩二)</p>				<p>第3回 4月24日：動物の栄養代謝 (神 勝紀) 第4回 5月 8日：動物の発生と繁殖 (瀧野光市) 第5回 5月15日：動物の行動と福祉 (竹田謙一) 第6回 5月22日：動物の体内環境と微生物 (上野 豊) 第7回 5月29日：植物バイオテクノロジー (伴野 潔) 第8回 6月 5日：植物育種とバイオマス利用 (春日重光) 第9回 6月12日：生産環境の観測と保全 (渡邊 修) (6月19日休講。「研究者倫理特別講義」開講のため) 第10回 6月26日：植物資源の収集と遺伝的評価 (松島憲一) 第11回 7月 3日：園芸植物における遺伝子発現の応用 (北村嘉邦) 第12回 7月10日：作物生産と物質循環 (萩原素之) 第13回 7月17日：植物遺伝資源の利用と可能性 (根本和洋) 第14回 7月24日：害虫防除の変遷と環境共生 (角田智詞) 第15回 7月31日：東南アジアの農村における農・畜・加工業混合生産システムと資源循環 (浜野 充) 第16回 8月 7日：期末試験 (平松浩二)</p> <p>(5) 成績評価の方法 講義の最後に行う小テストと期末試験で評価します。小テスト(50%)および期末試験(50%)の合計を100点満点に換算し評価します。評価基準は次の通りです。 秀：90～100点 優：89～80点 良：79～70点 可：69～60点 不可：0～59点</p> <p>履修上の注意 毎回講義の最後に小テストを行います。</p> <p>質問、相談への対応 各回の担当教員に直接質問して下さい。講義全体に関する質問は、メール等で担当教員にして下さい。</p> <p>学生へのメッセージ 生物資源科学分野の教員によるリレー式講義です。</p> <p>【教科書】 特になし 【参考書】 特になし</p>			

登録コード					担当教員		
授業科目					副担当		
英文授業名					副担当		
単位数		講義期間		曜日・時限		対象学生	
講義室			授業形態		備考		

登録コード	AS403500				担当教員	片山 茂	
授業科目	食品バイオサイエンス特論				副担当		
英文授業名	Advanced Lecture in Food Bioscience				対象学生	地域共生マネージメントプログラム受講生	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・3時限		
講義室	農学部11番講義室		授業形態	講義	備考		
<p>(1) 授業の達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>微生物,きのこ,植物など生物資源に含まれる成分や生物の機能を理解し,食品製造やバイオプロセスなど食品分野のイノベーション創出に結びつく高度専門知識とその実践応用力を修得している。</li> <li>バイオテクノロジーに関する幅広い知識をもとに,食料資源の新たな産業への利用可能性について説明できるようになる。</li> </ul> <p>(2) 授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>微生物,きのこ,植物など幅広い食料資源の高度利用に関する研究事例を紹介し,食料資源の有する生理機能や生体機能の調節作用について学習する。担当教員が食品分野での実務経験を活かして講義を行います。</li> </ul> <p>(3) Contents: This lecture will provide a better understanding of functionality of food resources. Current research topics including sustainable utilization of bioresource and advanced biotechnologies will be introduced.</p> <p>(4) 授業計画</p> <p>授業計画</p> <p>第1回:微生物細胞による物質生産(担当 池田正人)</p> <p>第2回:ゲノム時代の発酵生産菌育種(担当 池田正人)</p> <p>第3回:バイオリソース利用における遺伝子工学技術(担当 千菊夫)</p> <p>第4回:アミノ酸生産菌を用いた脂質発酵へのアプローチ(担当 竹野誠記)</p> <p>第5回:高圧処理による食料及び食品産業副産物の付加価値向上技術の開発(担当 藤田智之)</p> <p>第6回:酵素阻害物質を中心とした機能性食品素材の探索と応用開発(担当 藤田智之)</p> <p>第7回:様々な生物活性を有するポリフェノール化合物の合成(担当 眞壁秀文)</p> <p>第8回:地域資源を活用した高血圧予防食品開発(担当 中村浩蔵)</p> <p>第9回: カリンおよびマルメロ果実の機能性成分を活かした加工利用(担当 濱渦康範)</p> <p>第10回:有機化学反応から見る食品と生命の科学(担当 筒井歩)</p>					<p>第11回:機能性成分の更なる高度利用のための分子設計(担当 片山茂)</p> <p>第12回:アンチエイジング食素材の探索と機能性評価(担当 片山茂)</p> <p>第13回:食品製造に利用される微生物の機能性解析(担当 河原岳志)</p> <p>第14回:信州産野菜に含まれる免疫調節制御因子の探索(担当 田中沙智)</p> <p>第15回:食品成分による脂肪組織を介した全身の代謝制御(担当 三谷 壘一)</p> <p>第16回:総合討論:グループディスカッション(担当 片山)</p> <p>(5) 成績評価の方法</p> <p>各回の課題レポートの内容をもとに総合的に評価する。</p> <p>評価基準:</p> <p>評語 略記号 点数</p> <p>秀 S 90-100点</p> <p>優 A 80-89点</p> <p>良 B 70-79点</p> <p>可 C 60-69点</p> <p>不可 D 0-59点</p> <p>履修上の注意</p> <p>授業の性質上,録画受講はおこないません。</p> <p>質問,相談への対応</p> <p>原則,授業時間中に対応します。</p> <p>学生へのメッセージ</p> <p>【教科書】 特になし</p> <p>【参考書】 特になし</p>		

登録コード					担当教員		
授業科目					副担当		
英文授業名					対象学生		
単位数		講義期間		曜日・時限			
講義室			授業形態		備考		

登録コード	AS404500		担当教員	岡野 哲郎	
授業科目	中山間地域管理学			副担当	平松 晋也・内川 義行・三木 敦朗・上原 三知
英文授業名	Advanced Lecture in Environments and Symbiosis in Rural Districts			対象学生	地域共生マネージメントプログラム受講生
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	水曜・5時限
講義室	農学部11番講義室	授業形態	講義	備考	
<p>(1) 授業の達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールド科学の視点から、生態系サービスの向上を目指した管理理論および技術に関して、分野に個別な課題のみならず、分野の枠を超えた相互関連性が理解できるようになります。</li> <li>・開発された諸技術を現実社会に導入する上で、地域社会を構成する要素間に存在する様々な相互作用によって派生する影響を、広い視野から俯瞰できるようになり、このことによって個別に行われる研究について、それぞれが持つ特性および意義、さらには地域社会への寄与のあり方を探求する能力を持てるようになります。</li> </ul> <p>(2) 授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境共生を探求する上で必要とされる要素として、造林・緑化等の植生制御、防災および減災のための山岳国土基盤整備、中山間域における農業生産基盤整備と維持、経済学的視点からの農林業経営・資源管理、居住環境・景観形成および保全の5つを取り上げ、環境共生社会をめざした理論や実践的な技術のあり方について双方向的な議論を行い考究する。</li> <li>・さらに上記5つの要素が相互に関連し合っており、ある技術の施与が地域社会を構成する様々なモジュールに影響を及ぼし伝播していくことを理解し、研究や技術を実地社会に適用させていくために必要な課題を導き出す能力を総合的に体得する。</li> </ul> <p>(3) Contents:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Revegetation on land silde slope</li> <li>3. Present situation of natural disaster in rural districts</li> <li>4. Detailed Exposition on debris flow</li> <li>5. Forest functions for land management</li> <li>6. Land maintenance for agricultural use</li> <li>7. Function of agricultural land maintenance</li> <li>8. Methods of land maintenance</li> <li>9. Forest management in rural districts</li> <li>10. Forest management and its structure</li> <li>11. Forest resources management under world economy</li> <li>12. Landscape design and conservation of residence area environment</li> <li>13. Landscape design and natural preservation</li> <li>14. Landscape design and its conservation</li> <li>15. Discussion</li> </ol> <p>(4) 授業計画</p> <p>第1回：【座学】本講義の目的と概要説明（担当 岡野哲郎）</p> <p>第2回：【双方向】斜面崩壊地における植生回復：グループディスカッション（担当 岡野哲郎）</p> <p>第3回：【座学】中山間地域で発生する土砂災害の現状（担当 平松晋也）</p> <p>第4回：【双方向】土砂災害対策の種類と課題：グループワーク（担当 平松晋也）</p> <p>第5回：【双方向】山岳地域での国土基盤整備における森林の利活用：グループディスカッション（担当 平松晋也）</p> <p>第6回：【座学】中山間地域の農業生産基盤の現状（担当 内川義行）</p>			<p>第7回：【双方向】中山間地域の農業生産基盤の新たな活用：グループワーク（担当 内川義行）</p> <p>第8回：【双方向】中山間地域の農業生産基盤における維持管理：グループディスカッション（担当 内川義行）</p> <p>第9回：【座学】中山間地域の森林所有・林業（農民的林業）経営（担当 三木敦朗）</p> <p>第10回：【双方向】森林所有・林業経営に関する理論と林業構造：グループワーク（担当 三木敦朗）</p> <p>第11回：【双方向】グローバル経済下における地域農林資源管理：グループディスカッション（担当 三木敦朗）</p> <p>第12回：【座学】ランドスケープデザインと居住環境保全（担当 上原三知）</p> <p>第13回：【双方向】ランドスケープデザインと自然保護：グループワーク（担当 上原三知）</p> <p>第14回：【双方向】ランドスケープデザインと景観保全：グループディスカッション（担当 上原三知）</p> <p>第15回：【座学】環境共生 - 中山間地域管理のあり方 - を考える（担当 岡野哲郎）</p> <p>(5) 成績評価の方法</p> <p>各講義において小テストまたは小レポートを行い、これに基づき成績評価を行います。中山間において派生している様々な課題を理解できていれば「水準にある」、課題解決のための考察ができていれば「やや上にある」、さらに課題解決のための具体案を提示できていれば「かなり上にある」、課題が解決と研究との関係性を考察できていれば「卓越している」。</p> <p>履修上の注意</p> <p>講義資料を活用し、講義後においてノートの整理を行ってください。</p> <p>質問・相談への対応</p> <p>下記のメールにて質問を受け付けます。</p> <p>岡野哲郎：teokano@shinshu-u.ac.jp</p> <p>平松晋也：shira@shinshu-u.ac.jp</p> <p>内川義行：yuchi@shinshu-u.ac.jp</p> <p>三木敦朗：mikia26@shinshu-u.ac.jp</p> <p>上原三知：ueharam@shinshu-u.ac.jp</p> <p>学生へのメッセージ</p> <p>総合的な視野を持つことが重要です。授業計画を参照し、関連するであろう情報を自ら収集し、講義に望むようにしてください。</p> <p>【教科書】 特になし。必要に応じてプリント資料等を配付します。</p> <p>【参考書】 特になし。</p>		

登録コード			担当教員		
授業科目				副担当	
英文授業名				対象学生	
単位数		講義期間		曜日・時限	
講義室		授業形態		備考	

登録コード	AS405500				担当教員	下里 剛士	
授業科目	生命産業科学特論				副担当		
英文授業名					副担当		
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	水曜・2時限	対象学生	地域共生マネージメントプログラム受講生
講義室	農学部16番講義室		授業形態	講義	備考		
<p>(1) 授業の達成目標          先端生命科学分野では、農学および周辺学際領域を視野にいれた教育研究を担っている。本講義では、生命科学に関する基礎から応用展開までの包括的な内容を概説し、先端生命科学分野教員の扱う最先端の研究トピックスに触れることで、科学知識を基にした応用展開を検討できる能力を身に付ける。</p> <p>(2) 授業の概要          農学分野における生命科学の急速な発展に対応できる人材の養成を目指し、動物・植物・微生物資源の開発、分子構造解析と構造活性相関、ゲノム科学に関して解説する。さらに生命科学課題や展望について、受講者全員で議論する。</p> <p>(3) Contents:</p> <p>(4) 授業計画          第1回 【座学】生命産業科学概論(担当 下里)...4月10日          第2回 【座学】細胞を操作する分子を創る(担当 大神田)...4月17日          第3回 【座学】ゲノムインプリンティング機構(担当 鈴木)...4月24日          第4回 【座学】酵母の細胞内タンパク質輸送(担当 細見)...5月8日          第5回 【座学】実験動物の開発・育種とその利用(担当 小野)...5月15日          第6回 【座学】哺乳動物の精原幹細胞と精子形成(担当 高木)...5月22日          第7回 【座学】幹細胞と組織の再生(担当 高谷)...5月29日          第8回 【座学】きのご育種技術の最先端(担当 福田)...6月5日          第9回 【座学】外生菌根菌の生理・生態学(担当 山田)...6月12日          第10回 【座学】菌根形成に関わる宿主および菌側の遺伝子解析(担当 齋藤)...6月26日          第11回 【座学】植物と病原体の相互作用(担当 加藤)...7月3日          第12回 【座学】未定(担当 新任教員)...7月10日          第13回 【双方向】グループワーク(担当 下里)...7月17日          第14回 【双方向】グループワーク(担当 下里)...7月24日          第15回 【双方向】まとめと総合討論(担当 下里)...7月31日</p>				<p>(5) 成績評価の方法          受講態度・小テスト・課題レポート点の合計得点(100点満点)で評価する。60点以上を合格とする。          秀S:授業の達成目標の水準から見て卓越している          優A:授業の達成目標の水準よりかなり上にある          良B:授業の達成目標の水準よりやや上にある          可C:授業の達成目標の水準にある          不可D:授業の達成目標の水準よりやや下にある、またはかなり下にある          毎回講義の始めに出欠をとる。          20分以上の遅刻は出席としてカウントしない。          出席回数が10回(遅刻は含まない)に満たない場合、期末試験は受験できない。</p> <p>履修上の注意          【双方向】の回については、グループディスカッションを行いますのでeALPS録画受講でなく、対面出席をしてください。業務等で出席が出来ない場合は、担当教員[下里, shimot@shinshu-u.ac.jp]に連絡をとり相談してください。</p> <p>質問,相談への対応          各講義の内容については、担当教員に問い合わせして下さい。成績評価や履修に関する質問は、下里に問い合わせして下さい。emailも受け付けます。          下里剛士&lt;shimot@shinshu-u.ac.jp&gt;</p> <p>学生へのメッセージ          欠席ゼロを目指して臨んでください。</p> <p>【教科書】          無し          【参考書】          適宜資料を配付する</p>			

登録コード					担当教員		
授業科目					副担当		
英文授業名					副担当		
単位数		講義期間		曜日・時限		対象学生	
講義室			授業形態		備考		



登録コード	AS406500					担当教員	藤田 智之	
授業科目	地域課題探究演習					副担当		
英文授業名						副担当		
単位数	2	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	木曜・6時限	木曜・7時限	対象学生	地域共生マネージメントプログラム受講生
講義室	研究室		授業形態	演習	備考			
<p>(1) 授業の達成目標 本授業では、我が国・長野県が抱える社会・地域課題の「本質を理解」することをテーマとして「フィールド・ワーク」(または「ラボ・ワーク」)を実施します。受講者らはフィールド・ワーク(またはラボ・ワーク)を通じて、自らが「実践者」となるために必要な「現場」「課題」のリアルなイメージを形成し、「課題」発生のメカニズムを読み取り、自らが論理的に系統立てて記述する「リサーチ・スキル」と「プロセスシンキング」。「現場」で課題に悩む人々の物理的・心理的負担に対する理解や解決に取り組む人々の熱意に共感できる「マインド」様々な課題解決者達との「ネットワーク」を構築する「コミュニケーション」と「連携力」を獲得します(本授業の到達目標)。 (注)本授業は「地域連携・経営学特論」に連続して受講することを強く推奨します。それにより上記能力の獲得が促進されることとなります。</p> <p>(2) 授業の概要 本授業では、県内を中心として地域課題解決の取り組み事例に対するフィールド・ワーク(またはラボ・ワーク)を実施します。ここでのフィールド・ワーク(またはラボ・ワーク)の主たる対象は、社会・生産・人の営みとなります。授業の初回ではフィールド・ワーク(またはラボ・ワーク)の役割、およびインタビュー調査(またはラボ実験)の手法について、グループでのロールプレイング等も交えながら基礎的なスキルを学習します。その上で、2回の「フィールド・ワーク(またはラボ・ワーク)」を実施します。フィールド・ワーク(またはラボ・ワーク)の実施先については、受講生との相談、また実施先の都合に基づき実施日を調整いたします(実施日は平日ではなく、休日になる可能性もあります、場所にもよりますが半日程度は時間を確保することが必要です)。 (注)本授業は「地域課題探究演習」に連続して受講することを強く推奨します。それにより上記能力の獲得が促進されることとなります。</p> <p>(3) Contents:</p> <p>(4) 授業計画 第01-02回:【双方向】ガイダンス・地域課題探求へのチェックイン作業 前半:授業概要の説明 後半:フィールド・ワーク「ケース」(またはラボ・ワーク)の選定 第03-04回:【双方向】フィールド・ワーク(またはラボ・ワーク)概論とインタビュー調査概論</p>					<p>前半:フィールド・ワーク(またはラボ・ワーク)概論(講義) 後半:インタビュー調査概論(講義+演習)(またはラボ実験:課題設定) 第05-06回:【実地】フィールド・ワーク(またはラボ・ワーク)設計1 フィールド情報の事前共有、インタビュー調査設計(またはラボ実験:実験計画1) 第07-10回:【実地】フィールド・ワーク(またはラボ・ワーク)1 課題現場の視察、関係者へのインタビュー調査(またはラボ実験:実験1) 第11-12回:【実地】フィールド・ワーク(またはラボ・ワーク)設計2 フィールド情報の事前共有、インタビュー調査設計(またはラボ実験:実験計画2) 第13-16回:【実地】フィールド・ワーク(またはラボ・ワーク)2 課題現場の視察、関係者へのインタビュー調査(またはラボ実験:実験2)</p> <p>ケースは講師事情により一部変更あるいは順序等が変更になることがあります。より詳細な内容、不明な点について知りたい場合は事前に相談を受け付けます</p> <p>(5) 成績評価の方法 フィールド・ワーク(またはラボ・ワーク)実施時に作成した「フィールド・ノート」(または「ラボ実験」)を基に作成するレポートで評価を行います。 フィールド・ワーク(またはラボ・ワーク)レポート(50点×2) 秀:90~100点, 優:80~89点, 良:70~79点, 可:60~69点, 不可:59点以下</p> <p>履修上の注意 質問,相談への対応 随時受け付けます。 学生へのメッセージ 関連する情報を積極的に収集して、基礎資料の作成に活用してください。</p> <p>【教科書】 教科書は指定しない。フィールド・ワーク(またはラボ・ワーク)の実施先に関する情報については教員側から一部提供するが、受講者が自ら情報を収集し、基礎資料を作成する 【参考書】 佐藤郁哉 2002 フィールドワークの技法-問いを育てる, 仮説をきたえる 榊新耀社</p>			

登録コード						担当教員		
授業科目						副担当		
英文授業名						副担当		
単位数		講義期間		曜日・時限		対象学生		
講義室			授業形態		備考			

登録コード	AS407500					担当教員	藤田 智之	
授業科目	地域課題探究演習					副担当		
英文授業名						副担当		
単位数	2	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	地域共生マネージメントプログラム受講生	
講義室	研究室		授業形態	演習	備考			
<p>(1) 授業の達成目標          本授業では、我が国・長野県が抱える社会・地域課題の「本質を理解」することをテーマとして「フィールド・ワーク」(または「ラボ・ワーク」)を実施します。受講者らはフィールド・ワーク(またはラボ・ワーク)を通じて、自らが「実践者」となるために必要な「現場」「課題」のリアルなイメージを形成し、「課題」発生のメカニズムを読み取り、自らが論理的に系統立てて記述する「リサーチ・スキル」と「プロセスシンキング」「現場」で課題に悩む人々の物理的・心理的負担に対する理解や解決に取り組む人々の熱意に共感できる「マインド」様々な課題解決者達との「ネットワーク」を構築する「コミュニケーション」と「連携力」を獲得します(本授業の到達目標)。          (注)本授業は「地域連携・経営学特論」に連続して受講することを強く推奨します。それにより上記能力の獲得が促進されることとなります。</p> <p>(2) 授業の概要          本授業では、国内を中心として地域課題解決の取り組み事例に対するフィールド・ワーク(またはラボ・ワーク)を実施します。ここでのフィールド・ワーク(またはラボ・ワーク)の主たる対象は、社会・生産・人の営みとなります。授業の初回ではフィールド・ワーク(またはラボ・ワーク)の役割、およびインタビュー調査(またはラボ実験)の手法について、グループでのロールプレイング等も交えながらより応用的なスキルを学習します。地域課題探究演習で実施した「フィールド・ワーク(またはラボ・ワーク)」をさらに深化させます。フィールド・ワーク(またはラボ・ワーク)の実施先については、受講生との相談、また実施先の都合に基づき実施日を調整いたします(実施日は平日ではなく、休日になる可能性もあります、場所にもよりますが半日程度は時間を確保することが必要です)。          (注)本授業は「地域課題探究演習」と連続して受講することを強く推奨します。それにより上記能力の獲得が促進されることとなります。</p> <p>(3) Contents:</p> <p>(4) 授業計画          第01-02回:【双方向】ガイダンス・地域課題探究演習の評価          前半:経過説明 後半:目標の選定          第03-04回:【実地】フィールド・ワーク(またはラボ・ワーク)設計3          フィールド情報の事前共有、インタビュー調査設計(またはラボ実験:実験計画3)</p>						<p>第05-08回:【実地】フィールド・ワーク(またはラボ・ワーク)3          課題現場の視察、関係者へのインタビュー調査(またはラボ実験:実験3)          第09-10回:【実地】フィールド・ワーク(またはラボ・ワーク)設計4(またはラボ実験:実験計画4)          フィールド情報の事前共有、インタビュー調査設計          第11-14回:【実地】フィールド・ワーク(またはラボ・ワーク)4          課題現場の視察、関係者へのインタビュー調査(またはラボ実験:実験4)          第15回:【双方向】総括          第16回:口述試験(授業を通じて本授業の到達目標をどのように理解したか)</p> <p>ケースは講師事情により一部変更あるいは順序等が変更になることがあります。より詳細な内容、不明な点について知りたい場合は事前に相談を受け付けます。</p> <p>(5) 成績評価の方法          フィールド・ワーク(またはラボ・ワーク)実施時に作成した「フィールド・ノート」(または「ラボ実験」)を基に作成するレポート及び口述試験で評価を行います。          フィールド・ワーク(またはラボ・ワーク)レポート(40点×2)          口述試験(20点)</p> <p>履修上の注意          地域課題探究演習を履修しておくこと。</p> <p>質問、相談への対応          随時受け付けます。</p> <p>学生へのメッセージ</p> <p>【教科書】          教科書は指定しない。フィールド・ワーク(またはラボ・ワーク)の実施先に関する情報については教員側から一部提供するが、受講者が自ら情報を収集し、基礎資料を作成する          【参考書】          佐藤郁哉 2002 フィールドワークの技法-問いを育てる、仮説をきたえる 榊新曜社</p>		

登録コード						担当教員		
授業科目						副担当		
英文授業名						副担当		
単位数		講義期間		曜日・時限		対象学生		
講義室			授業形態		備考			

登録コード	AS408500						
授業科目	特別研究				担当教員	藤田 智之	
英文授業名	Graduate Research				副担当	松島 憲一	
単位数	10	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	農学専攻
講義室	研究室		授業形態	演習	備考		
<p>(1) 授業の達成目標 受講者の専門分野を中心とした情報収集能力、研究課題を設定して遂行する能力、問題解決能力及び成果や結果に対して客観的に判断できる能力、プレゼンテーション能力、情報発信能力などを身につけた地域の核となるリーダーの養成を目標としています。</p> <p>1. 職場や地域社会における研究課題を明確にして、その背景と目的・目標、社会的意義が説明できる。 2. 解決すべき課題を理解し、関連する文献や成功事例を参考にして、実施計画、方針を定めることができる。 3. 具体的な解決策を実践し、内容についての議論と客観的な評価、特定課題研究報告書としての総括を行い、今後の方向性が提案できる。</p> <p>以上の3点を目標として、課題に対する探求力、問題解決能力などの研究遂行能力を涵養し、高度な専門知識や応用技術を身に付けた高度専門職業人として必要な実践力を養います。</p> <p>(2) 授業の概要 全体ガイダンスの後に、指導教員及び副指導教員が課題解決に向けた目標設定、研究計画の立案、研究の遂行に関する技術指導、研究成果の解析、結果に対する考察などについて指導します。研究の遂行およびディスカッションを通じて探求力、問題解決能力、プレゼンテーション能力などの基礎的な研究能力を身につけます。他の受講者とのディスカッションにより、より良い研究方法も模索してください。研究の進行状況に応じて、随時ディスカッションを行います。得られた成果を総括し、社会への発信、特定課題研究報告書の作成、ならびに審査会での発表に向けた研究指導を行い、高度専門職業人として必要な実践力を養成します。</p> <p>(3) Contents: Students will learn a lot of skills such as planning of investigations and experimental techniques for study on agricultural sciences throughout their own research.</p> <p>(4) 授業計画 全体ガイダンスの後、指導教員及び副指導教員が課題解決に向けた目標設定、研究計画の立案等について協議しながら授業を進めます。</p> <p>1) 【座学】特定課題研究ガイダンス 2) 【双方向】研究課題の設定(課題紹介)(グループ/全体討議) 3) 【双方向】研究課題の設定(目標設定)(グループ/全体討議) 4) 【座学】計画の策定(月次計画および全体計画) 5) 【座学】技術指導(情報検索・文献検索)</p>					<p>6) 【実地】技術指導(事例紹介) 7) 【座学】技術指導(方法論、解析法指導) 8) 【双方向】研究経過報告(グループ/全体討議) 9) 【実地】実技指導(フィールド調査または実験・実習) 10) 【双方向】データまたは情報のまとめと統計処理(グループ/全体討議) 11) 【座学】要旨作成・文献検索 12) 【双方向】報告書作成指導(グループ/全体討議) 13) 【双方向】成果発表指導(グループ/全体討議) 14) 【座学】特定課題研究報告書の作成 15) 【双方向】総括と総合討議(グループ/全体討議)</p> <p>(5) 成績評価の方法 研究課題への取組み、研究経過報告(月例)および特定課題研究報告書の内容を総合的に評価します。なお、特定課題研究報告書の評価には、発表要旨提出、審査会におけるプレゼンテーション及び質疑応答を含みます。</p> <p>課題及び到達目標の設定が適切であり、そのテーマの背景及び目的が説明できること。到達目標に対して独自の解決策を提案できており、その提案の遂行ならびに結果の評価に至るまでの過程が明確に示されていること。その上で自身の見解を表現できており、かつ、成功事例を示すことができるもしくは教員を感心させるレベルにあれば「秀:卓越している」、前記の項目を満たしていれば「優:かなり上にある」、結果の評価までできていれば「良:やや上にある」、提案の遂行までできていれば「可:水準にある」、課題の達成目標水準を下回る場合は、「不可」とする。</p> <p>秀:90~100点、優:80~89点、良:70~79点、可:60~69点、不可:59点以下</p> <p>履修上の注意</p> <p>質問、相談への対応 随時受け付けます。</p> <p>学生へのメッセージ</p> <p>【教科書】 使用しません。 【参考書】 課題に関連した科学論文や参考資料を適宜配布します。</p>		

登録コード						
授業科目					担当教員	
英文授業名					副担当	
単位数		講義期間		曜日・時限		対象学生
講義室			授業形態		備考	